

記者発表資料

～道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携～
吉見町の魅力を発信する歳時記カレンダーの作成や
地元食材を活かした独自商品の企画に取り組みます。

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、立教大学と吉見町の道の駅「いちごの里よしみ」及び大宮国道事務所3者で連携企画型の実習を実施することとなりましたのでお知らせします。

この取り組みは、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するとともに、「道の駅」が地域活性化の拠点を目指して進化を遂げるため、「道の駅」と大学がお互いに連携・協力しあい、付加価値を創出する企画・立案等を実施するものです。(詳細は、別途資料参照)

【実施内容】

- 吉見町の地域資源調査
- 歳時記カレンダー作成
- 独自商品等の企画

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 埼玉県政記者クラブ

問合せ先

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所
計画課長:藤坂 幸輔(ふじさか こうすけ)
住所:埼玉県さいたま市北区吉野町1-435 電話:048-669-1200(代表)

立教大学
観光学部教授:東 徹(あずま とおる)
住所:埼玉県新座市北野1-2-26 電話:048-471-7375(学部事務室)

吉見町役場 地域振興課(道の駅「いちごの里よしみ」担当)
地域振興課長:小川 輝由(おがわ てるよし) 担当:笛木 学(ふえき まなぶ)
指定管理者:有限会社 いちごの里よしみ
住所:埼玉県比企郡吉見町大字下細谷411 電話:0493-54-5027(直通)

道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携

道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学(観光学部)の学生が連携して、「道の駅」の歳時記カレンダーや吉見の食材を活かした独自商品などを企画・立案します。

吉見町の地域資源調査

町の魅力を追求するため、道の駅利用者や地域の農家などに取材します。



歳時記カレンダー作成

イベント情報(祭)、花の見ごろ(彩)、地域野菜の旬な時期(菜)等を歳時記にします。

祭・彩・菜の3つの“サイ”で、よしみの今が一目でわかる、サイ時記カレンダーを作成します。



独自商品等の企画

吉見町の魅力を発信できる商品やオリジナル弁当などを企画します。



【吉見町】

・吉見いちご

合併直後の昭和30年代から養蚕に代わって栽培が始まった吉見のいちご。荒川と市野川に挟まれた肥沃な大地はとびきりおいしいいちごの生育に最適で、今や県内一の生産量を誇る産地です。



・吉見あぶら味噌

吉見町認定のB級グルメ「あぶら味噌」は、昔から農家で食べられていた郷土料理。栄養価も高く疲労回復に効果的です。町内飲食店では、あぶら味噌ハーモニーを展開中。



・花便り(桜・菜の花／紅葉)

四季折々の花が楽しめるのも魅力です。特に、桜堤公園の桜のトンネルと菜の花のコントラスト、晩秋を彩る八丁湖の紅葉と紅葉をライトアップするヒーリングナイトは、吉見町自慢の景色です。



【立教大学】

立教大学観光学部(所在地:新座市)は、今年度より「道の駅」と連携し、学生の実践的学びとして様々なプログラムを実施しています。「就労体験型」として、学部の子課インターンシップ(学部の正規の授業として単位が認定されるもの)である「観光インターンシップ」の受講生2名のほか、学部内公募の学生2名が各地の道の駅で実習を行います。

道の駅「いちごの里よしみ」を舞台とした「連携企画型」として、東教授のゼミナールに所属している8名の学生が、コンセプトの提案や商品企画、イベント企画等、様々な課題に取り組んでいます。(東教授のゼミナールでは、マーケティングの視点から観光・サービス・まちづくり等、様々な問題について学生の自主的な取り組みを活かした研究を進めています。)

【道の駅「いちごの里よしみ」】

埼玉県内第1位の生産量を誇る「吉見いちご」の直売やいちごのお土産が買える、『いちごづくし』の道の駅。地元野菜が並ぶ農産物直売所、B級グルメが味わえる食堂、いちごをモチーフにした遊具もある広場など、年間を通して多くの来場者で賑わいます。

